

平成29年度 第1回 経営協議会議事要録

日 時 平成29年6月19日（月） 15:00～16:40

場 所 事務局第1会議室

出席者 三村学長，市村委員，小田部委員，種田委員，芳賀委員，原田委員，福地委員，宮下委員，柳生委員，山口委員，尾崎理事，太田理事，袖山理事，影山理事，佐川人文社会科学部長，生越教育学部長，折山理学部長，馬場工学部長，久留主農学部長

欠席者 大沼委員，三浦委員，安井委員

議 題

・審議事項

- 1 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書及び平成28年度自己点検評価書の策定について
- 2 平成28事業年度決算について
- 3 その他

・報告事項

- 1 COCプラス事業アドバイザーボード（外部評価）結果について
- 2 茨城大学「地（知）の拠点整備事業」（茨城大学COC事業）平成28年度および過去3年間の事業実績に関する外部評価結果等について
- 3 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」平成28年度評価 評価結果について
- 4 平成28年度監事監査報告書について
- 5 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について
- 6 財務改善実行計画の進捗状況について
- 7 その他

・討議事項

- 1 本学の学部・研究科改組の進捗状況について

議 事 概 要

I 審議事項

- 1 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書及び平成28年度自己点検評価書の策定について
学長から，審議願いたい旨提案があり，横木学長特別補佐から，資料1に基づ

き説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

【主な意見】

- 外部資金の獲得増加について、右肩上がりに増加しており、獲得増加に向けての取組みがあった結果だと理解出来るが、特にどのような面で増加の伸びがあり、今後の可能性をどのように見ているのか。また、昨年度から本学の取組みが新聞記事などで多く取り上げられ大変結構なことだが、どのような広報の取組みを行い、今後はどのように展開していくのか。
- 本学の戦略の一つとして、大学ランキングなどの上位の大学の取組みを分析や研究をしてはいかがか。社会から注目を浴びる取組みを参考にしつつ、本学の取組みに反映させても有意義ではないか。

2 平成28事業年度決算について

学長から、審議願いたい旨提案があり、財務課長から、資料2に基づき説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

3 その他

II 報告事項

学長から、事前に資料を送付していることから、質問等があれば説明をする旨の説明があった。

III 討議事項

1 本学の学部・研究科改組の進捗状況について

学長から、委員の皆様よりご意見をいただきたい旨の提案があり、学長及び各学部長から、資料9に基づき説明があった。

【主な意見】

- 茨城県内だけではなく、地方における共通の問題として、人口減少の問題がある。地域の問題を考える場合は、地域がどのようなブランドを持っているのか、それに対してどのような形で地域の再生を行っていくのか、そのような視点で人口減少の問題を考える必要がある。総務省の予測値では、2060年における日本の人口は、現在と比較すると約4千万人減少するとしており、各都道府県においては年間約2万人が減少すると累積予測されている。茨城県は農業県であるが、農業人口が減少していくと予測され、製造業、水産業なども同様である。そのような状況の中で特定の技術や分野を縦割りだけで考えるのではなく、理系の知識と社会科学系の知識などを融合し、このような問題に取組み、地域の再生を行っていく必要がある。茨城県内が今後どのように変わっていくのかなどを見据えて、問題を詰めていく必要がある。そのような点で、本学が分野横断的に取り組んでいただき、真に地域に貢献できる大学になることを期待する。
- 日本全体で農業の担い手が激減している。最も必要なのは経営力であり、いかにして労働力を集められるかが決め手となる。視点を変えて考えると海外進出が重要であり、農産物だけではなく、農薬メーカーなども海外進出して

いる。大きな問題も十分認識しつつ、組織を乗り越えて協調・協働も必要である。

- 日越大学について、本学が気候変動プログラムの幹事校として参画し、精力的に作業を進められているが、非常に名誉なことであり、将来の可能性を多く秘めている分野である。今後はどのように取り組んでいくのか。
- 日越大学は平成28年9月に開講し、今年度9月に本学が担当している大学院の気候変動プログラムをスタートする計画である。現在は、ベトナム国家大学と日越大学において最終的な打合せが行われている。
- 本学の学部・研究科の改組について、受験生や保護者に向けて、その改組が如何に魅力的であるか、また、本学で学ぶことの有用性や価値を見出せるかなどの点において、どのような広報の工夫をされているのか。

IV 監事からの意見について

- ・ 本日の議題において「平成28年度監事監査報告書について」を報告させていただいた。この報告書は、平成28年度監事監査計画に基づき、大学の業務全般について項目ごとの取組みを評価している。特に大学改革の進捗状況、教育研究の取組みなどを重点項目として報告書にまとめている。具体的な内容については、監査計画に基づき、各項目ごとに平成28年度の取組みを簡潔にまとめ、その項目に対する監事意見をその都度述べている。特に平成28年度については、財務改善実行計画について、毎年運営費交付金が削減されていく中で、どのように本学を経営していくのか、そのような視点で意見を述べている。さらに、本学の課題である入学志願者の減少について、平成29年度入試では前年度比で約1,600名も入学志願者が減少しており、そのような課題について意見を述べている。さらに、入試ミスが発生しており、そのような課題についても独自の視点から意見を述べている。さらに、競争的資金を獲得するにあたり、URAの活動について評価すると共に意見を述べている。さらに、課題があるCOCプラス事業について意見を述べている。報告書では評価すべきところはしっかりと評価している。全体で21項目ほど評価し、その上で意見を述べている。
- ・ 平成28年度監事監査報告書の対応について、学内で真摯に対応していただいていることを委員の皆様にお伝えする。6月5日の副学長・学長補佐会議で監事監査報告をさせていただき、学長の判断により、大学運営会議の議題に取り上げていただき協議をしていただいている。監事の立場から、意見を丁寧に採り上げ、多角的視点から大学運営を見直し、全国に誇れる大学にしたいと願う学長の大学改革への強い思いを感じている。それと同時に、各学部長の学部・研究科改組への熱い思いも各会議を通して感じている。今年度は、より熱い思いを持ってスタートしており、その中で、本日の会議で委員の皆様からいただいたご質問やご指摘について、原点に戻って様々なことを考える非常に良いきっかけをいただいた。今年度もそれぞれのお立場から本学へのご助言をいただけましたら幸いに存じます。

V その他

1 経営協議会会議資料の公開について

学長から、資料2は非公開、それ以外は全て公開する旨の確認があった。

2 次回経営協議会開催日

各委員の日程調整をしたうえで、決定次第お知らせする旨の確認があった。